

請 願 文 書 表

(教育委員会)

受 理 番 号	1 2 2 5	受 理 年 月 日	令 和 5 年 2 月 10 日
件 名	小学校のような全員制の中学校給食の実施		
要 旨	<p>2021年の1年間で、京都市の人口が約1万2,000人少なくなり、全国の市区町村の中で最も減少していたことが総務省の調査で判明した。減少数が最多となったのは2年連続である。とりわけ、子育て世代の流出が深刻である。子育て世代が流出する自治体は、子育て支援策の後れが目立つと指摘されている。</p> <p>京都市の中学校給食は、家庭からの弁当持参か給食かを選択するシステムで、民間業者に委託して作られた弁当型の給食が学校に運ばれてくる。おかずが温かくない、給食を利用している友達が少ないなどの理由で、利用率（喫食率）は2014年度の32.3パーセントを最高に6年連続で減り続け、2021年度は23.7パーセントと非常に低い実態となっている。</p> <p>学校給食は家庭で不足しがちな栄養が補えるように設定され、骨が成長する中学生時代に栄養バランスの取れた給食を食べると、骨密度が高くなるという調査結果も出ている。栄養のある温かい給食を食べることは、体の成長・発達だけでなく、子供に安心感を与える。</p> <p>全国では、中学校でも全員制の給食が当たり前である。西日本の政令指定都市の中で選択制なのは京都市だけで、京都府内の中でも全員制の中学校給食の方針を持たないのは京都市だけである。</p> <p>ついては、子育て支援策としても、全ての中学校で小学校のような全員制の給食を早期に実施することを願う。</p> <p>なお、本請願について、右京区5,816筆、西京区667筆、合計6,483筆の署名を添える。</p>		
請 願 者			
紹 介 議 員	くらた共子、河合ようこ、鈴木とよこ、ほり 信子、山田こうじ		
付 託 委 員 会	教 育 福 祉 委 員 会		